

# 通路清掃マニュアル

## ■現場到着

1. 髪、服装、身なり等を再度確認し合う。(車内の整理も行う)
2. 作業員全員で管理員に挨拶をし、作業内容・注意事項・駐車位置の打ち合わせを行い、ピラを確認する。(作業日・作業時間・作業内容など)
3. 駐車位置を管理員に確認後駐車を行い、ラミネートを掲示する。無人物件及び駐車できない場合はコインパーキングを利用する。
4. 作業員全員でKYミーティング・作業の打ち合わせを行う。

## ■作業前準備

1. 全員で道具の準備を行う。
2. 物件の鍵の本数を確認する。キーボックスを使用する際は名刺を入れる。
3. 出入り口やエレベーターにマット、看板を設置する。
4. 高圧洗浄機を使用する場合は機材を居住者の妨げにならない箇所に設置し、高圧洗浄機周辺にカラーコーンを設置して安全を促す。
5. 高圧ホースを設置する。
  - ・上階部よりホースを降ろす際は作業員一人が階下から安全を確認した上で水を撒き散らさないように注意して降ろす。
  - ・上階部のホースを固定する箇所には養生しておく。
  - ・地上部の余ったホースは束ね、カラーコーンを立てて注意を促す。

## ■作業開始

### (高圧洗浄時)

1. 備品、居住者の私物の移動
  - ・備品は邪魔にならないところに移動し、破損の恐れがある物は管理員へ報告する。私物に関しては基本的には動かさないが、作業上どうしても必要な場合は管理員に相談し、最低限の物のみ移動する。また、何処に何があったか忘れないようにし、移動の際は破損事故等無いように気を付ける。
2. 洗浄
  - ・洗浄ムラ、周囲の備品に気を配りながら作業する。デッキ、スコッチによる洗浄は壁や扉に当てて傷を付けたり、汚れの見落としが無いように気を付ける。
3. 流水
  - ・汚水の流し忘れが無いようにする。また、周囲に気を配りながら、エレベーター、居住者の私物、階下に水がかからないように気を付ける。
4. 汚水処理
  - ・汚水の吸い残しが無いように気を付ける。また、ウォンドやスクイジーを壁や扉に当てて傷を付けたり備品の破損に気を付ける。
5. 拭き上げ
  - ・床面をモップで拭き上げ、扉や手摺りなどの水のかかった箇所、備品やエレベーターの溝等をウエスで拭き上げる。

## (ポリッシャー洗浄時)

1. 備品、居住者の私物の移動。
  - ・備品は邪魔にならないところに移動し、破損の恐れがある物は管理員へ報告する。私物に関しては基本的には動かさないが、作業上どうしても必要な場合は管理員に相談し、最低限の物のみ移動する。また、何処に何があったか忘れないようにし、移動の際は破損事故等無いように気を付ける。
2. 水撒き
  - ・周囲に気を配りながら、洗浄中に汚水が乾かない程度に水を撒く。
3. 洗浄
  - ・洗浄箇所に適したブラシ・パッド・洗剤を使用する。また、洗浄ムラ、周囲の備品に気を配りながら作業する。デッキ、スコッチによる洗浄は壁や扉に当てて傷を付けたり、汚れの見落としが無いように気を付ける。
4. 流水
  - ・汚水の流し忘れが無いようにする。また、周囲に気を配りながら、エレベーター、居住者の私物、階下に水がかからないように気を付ける。
5. 汚水処理
  - ・汚水の吸い残しが無いように気を付ける。また、ウォンドやスクイジーを壁や扉に当てて傷を付けたり備品の破損、
6. 拭き上げ
  - ・床面をモップで拭き上げ、扉や手摺りなどの水のかかった箇所、備品やエレベーターの溝等をウエスで拭き上げる。

## ■仕上げ

1. 床面に汚れがあれば、デッキやスコッチによる洗浄を行う。
2. 扉や溝、備品等水のかかった箇所の拭き上げを行う。
3. ドレン周辺のゴミを除去する。
4. 動かした備品を元の位置に戻す。移動の際は破損に十分気を付ける。

## ■最終確認

1. 自動ドアの電源を戻し、正常に作動するか確認する。
2. 使用した散水栓の止水を確認する。
3. コンセントカバーの施錠を確認する。
4. 写真の撮り忘れが無いか確認する。
5. 掲示してあるピラを剥がし、報告書があれば記入する。
6. 管理室の消灯、施錠を確認する。
7. ロック扉の閉め忘れが無いか確認する。
8. 使用した機材などの忘れ物が無いか、確認する。
9. 物件の鍵を使用した場合は鍵の本数を確認してキーボックスなどに戻す。その際、キーボックスの施錠も確認する。